

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	18134
課題名	ヒト表皮微細構造の3次元電子顕微鏡解析
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2022年8月31日
研究の対象	1992年1月～2018年7月に旭川医科大学病院皮膚科で皮膚切除術を受けられた方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：カルテ番号、年齢、性別、皮膚採取部位、診断名、等） <input checked="" type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：皮膚） <input type="checkbox"/> 血液 <input checked="" type="checkbox"/> その他（皮膚組織の顕微鏡画像）
外部への試料・情報提供	<input type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先：日立ハイテクノロジーズ、鹿児島大学大学院神経病学講座形態科学分野、資生堂ライフサイエンス研究センター）（提供方法：郵送、直接持参） <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ）
研究組織	旭川医科大学病院皮膚科 山本 明美 同上 岸部 麻里 同上 藤井 瑞恵 同上 松尾 梨沙 同上 長澤 有祐 旭川医科大学解剖学講座顕微解剖学分野 渡部 剛 同上 甲賀 大輔 鹿児島大学大学院神経病学講座形態科学分野 久住 聡 資生堂ライフサイエンス研究センター 山西治代 日立ハイテクノロジーズ 東京ソリューションラボ
研究の意義、目的	最近、アトピー性皮膚炎や喘息などのアレルギー疾患の原因のひとつが、皮膚が保護膜として十分な役割をはたせないために、皮膚表面に付着した食物や花粉などの一部が体内にとりこまれてしまうためであると分かってきました。この研究では皮膚の保護膜としての役割がどのような仕組みで成り立っているのか、病気の皮膚ではどのような異常があるのかを最新の電子顕微鏡で研究します。この研究によって健康な皮膚の保護膜を得る方法、保護膜の障害の予防方法などを開発するための基礎知識が得られると期待できます。
研究の方法	患者さんが旭川医科大学病院皮膚科にて診断や治療のために皮膚を切除する際に得られた組織のうち、診断後に不要となった部分を電子顕微鏡による検査に用います。切除した皮膚を患者さんの氏名やカルテ番号がわからないように匿名化した後、薬品により固定し、樹脂に包埋し、そこから薄い切片を切り出します。この切片を電子顕微鏡のある施設に持ち込み顕微鏡画像を取得します。得られた画

	像データをコンピューターで解析し、得られた結果を学会や論文で発表します。
その他	当研究の一部は日立ハイテクノロジーズが所有する装置を用いて行いますが、研究者と企業との利害関係はありません。また、当研究は資生堂ライフサイエンス研究センターとの共同研究として行いますが、本研究の利害関係については旭川医科大学利益相反審査委員会の審査と了承を得ています。また、本研究の経過を定期的に旭川医科大学利益相反審査委員会へ報告等を行うことにより、研究者と企業との利害関係について適正にマネジメントし、公平性を保ちます。
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：研究責任者</p> <p>研究責任者：旭川医科大学皮膚科学講座 山本 明美 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 電話 0166-68-2523 研究代表者：旭川医科大学皮膚科学講座 山本 明美</p>